

伏見南浜の響育

○ 私たち大人にできることは・・・

～学校評価アンケートの結果から～

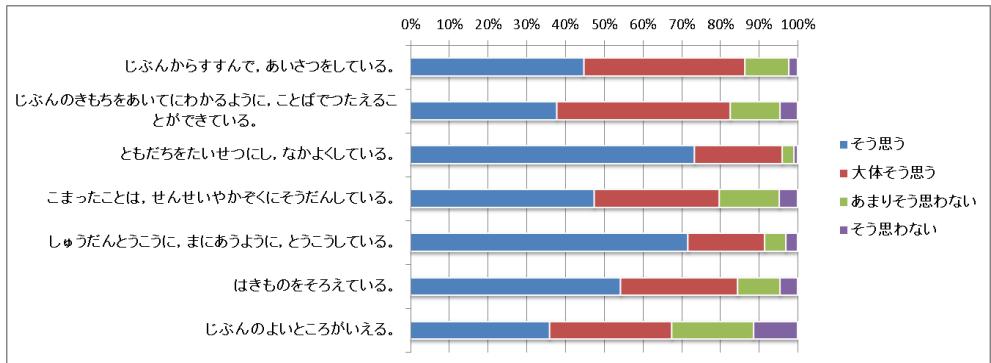
先日の土曜参観では、早朝より家庭教育学級にご参加いただきありがとうございました。視聴覚室がいっぱいになるほど来ていただけたこと、本当にうれしく、頑張らなくてはと思いました。重ねて御礼申し上げます。

さて今回は、家庭教育学級での話の続きとして、学校評価アンケートの結果から見える子どもたちの様子をお伝えし、私たち大人が力を合わせて進む方向について考えたいと思います。

次に示すグラフは子どもたちへのアンケートの結果です。

【生活面】

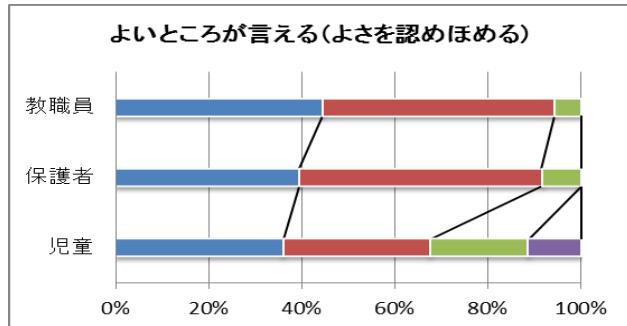
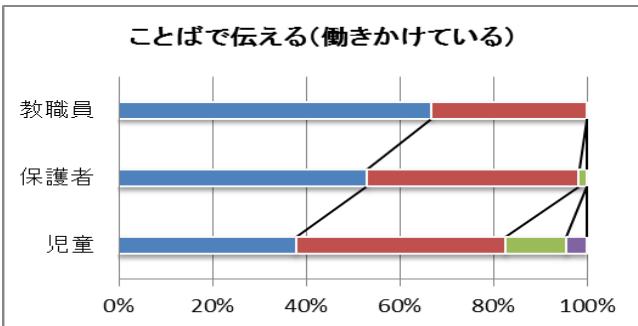
7つの項目のグラフを見比べると、「友だちを大切にしている」という項目や「集団登校に間に合うように登校」という項目に比べ、「あいさつをすること」や「言葉で伝えること」「自分のよいところが言える」「先生や家族に相談す



る」などについて自信をもって「できている（そう思う）」と答えている児童が少ないことが分かります。中でも、「自分のよいところが言える」という項目についての肯定的な回答の少なさが気になります。

学校生活での様子を見ていても、本校の子どもたちには、教職員からの指導や助言を素直に受け止め、進んで実行する良さがある反面、自分で考え、自信をもち主体的に取り組むことには消極的であるように感じます。

挨拶の項目については、9月の学校だよりや家庭教育学級にグラフを基にお伝えしましたので、ここでは他の3項目について、教職員・保護者の皆様の結果と比べてみましょう。



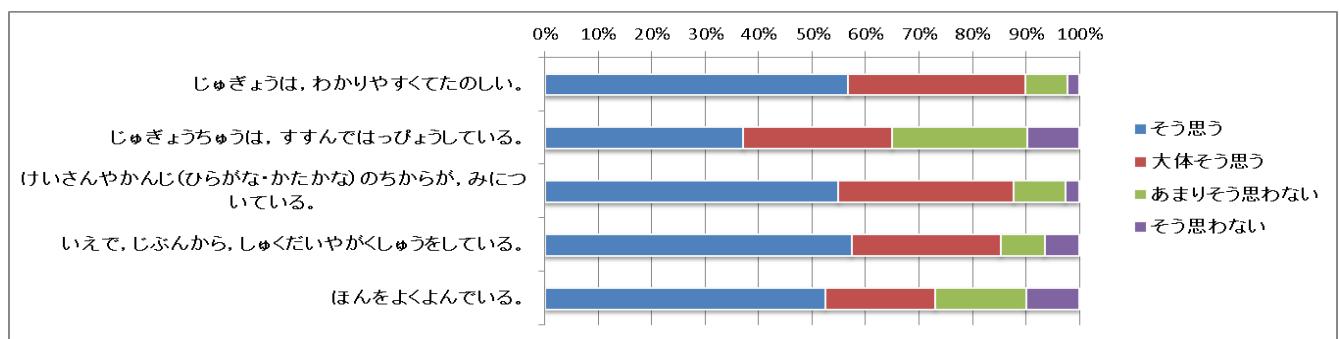
「自分の気持ちを相手に分かるように言葉で伝えること」について、教職員は、否定的な回答が0%であることから、意図して積極的に働きかけていることがうかがえます。保護者の皆様も98.2%の方が肯定的に答えてくださっています。しかし、自信をもって言葉で伝えることができると答えた児童は4割弱です。言葉で伝えることについて、さらに意識して働きかけていく必要があるようです。また、大人が進んで分かりやすい言葉・適切な言葉を遣い、よりよい言語環境作りに努めることも必要です。

「自分のよいところが言える」ことについても、グラフには同じような傾向が見られます。しかし、教職員・保護者・児童の三者ともに、否定的な回答の割合が増えています。児童については、約3割以上の児童が、自分のよいところが言えるということについて否定的です。人は、「自分によいところがある」、「自分は人から認められている存在である」と思えてこそ、前に進もうと思えるものです。そして、ちょっと苦手なことにも取り組んでみようと主体的になれるものです。子どもたちが自分に自信をもてるようにするにはどうすればいいのか、このことが私たち大人の大きな課題です。ほめること・認めるることはもちろんですが、学習や日常生活場面で何かをやり遂げた達成感や満足感を味わえるような経験ができるよう考える必要があります。

「先生や家族に相談する」という項目について、2割の子どもたちが、否定的に回答しています。児童の困りを早期に見つけ、対応するためにも私たち大人は、子どもたちの様子に常にアンテナをはると共に、子どもたちがありのままの自分を出すことができる環境や雰囲気をつくることが必要です。子どもが嘘をついたり隠したりすることの多くは、大人に叱られたり、子どもたち同士の関係が悪くなったりするのを避けるためのようです。私たちは、頭ごなしに決めつけて叱ったり、形だけ整えようとしたりせず、子どもの気持ちをしっかり受け止めた上で指導するように心がけ、子どもが納得して前に進むことができるようになっていきたいと思います。

【学習面】

次のグラフは、学習面に関する児童アンケートの結果です。



「授業がわかりやすくて楽しい」と90%の子どもが肯定的に答えている一方で、10%の児童は否定的です。私たち教職員はさらに、子どもたち一人一人に届く授業の在り方、それを支える学校の組織作りに努めて参りたいと思います。

さて、授業はわかりやすくて楽しいと肯定的に答えている児童が90%いる一方で、「進んで発表している」と肯定的に答えている児童は65%です。生活面と同じように、消極的であることが伺えます。学校では、授業の中でできるだけ一人一人が自分の意見をもち、発表できる場を設定するなどさらに工夫していきたいと思います。

次に気になるのは、読書に関する項目です。本校の近くには、伏見中央図書館があり学習環境として恵まれているためか教職員や保護者の働きかけに比べて児童の肯定的な回答が高いという結果が出ています。有り難いことですが、私たち大人もさらに意識して関わっていくことが必要であると思います。また、どのような本を読んでいるのかという

内容が問題になります。学校では、学習に関連した本や調べ学習で図書館を活用するなど、さらに読書や図書館を身近なものにしていくよう努めたいと思います。

以上、学校評価アンケートから見られる子どもたちの状況と大人ができることについて書かせていただきましたが、お気づきのことがあればお知らせいただければと思います。力を合わせて子どもたちを育てて参りたいと思います。ご協力よろしくお願ひ申し上げます。

校長 山崎 弥生

